

令和 2 年 6 月 19 日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02982

研究課題名(和文)Linguaculture Resistance and its Effects on Learner Motivation

研究課題名(英文)Linguaculture Resistance and its Effects on Learner Motivation

研究代表者

シヨールズ ジョセフ (Shaules, Joseph)

順天堂大学・国際教養学部・教授

研究者番号：40771093

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：言語学習に対する否定的な態度は日本では一般的であるが、その学びに抵抗する心理学的な研究はほとんど実施されていない。本研究では、異文化適応の視点から心理的に抵抗する学習者の態度を調査した。その過程で言語学習における意欲や抵抗する態度を測定するため、心理的な尺度を測定する Linguaculture Motivation Profiler (LMP) を開発した。外国語を履修している大学生からデータを収集して分析した結果、多くの学習者が意欲と抵抗が混合している状態を示した。このように学習意欲が減退することは自然なことであり、単に動機の欠如ではないことを示唆している。LMPの活用により教師を支援する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国際化と外国語教育を推奨する教育政策にも関わらず、多くの学生は言語学習に対する心理的な抵抗を経験している。しかしながら、このような課題に関する研究はほとんど実施されていない。また、学びの過程における心理的ストレスや外国語学習に対する学習者の認識に焦点を合わせた研究成果もあまり報告されていない。否定的な学習者の態度に関する第2言語習得論(SLA)の調査では、学習者の外的要因に焦点をあて、否定的な態度を学習意欲の欠如、または学習の失敗として扱うことが多い。本研究は、外国語を学習することによる心理的な要素を探求することにより、政府の方針とのギャップを埋めることを目的としている。

研究成果の概要(英文)：Negative attitudes towards language learning are common in Japan, yet there is little research on the psychology of resistance towards language learning. This research used an intercultural adjustment perspective to examine learner attitudes from the point of view of psychological resistance. It developed a psychometric instrument, The Linguaculture Motivation Profiler (LMP), to measure attitudes of resistance and engagement towards language learning. It gathered data from university language learners and used this to analyze learner attitudes. Results showed many learners commonly have mixed motivation. They consciously value English, but also have psychological resistance to learning. Results suggest that resistance is a natural part of language learning, and not simply a lack of motivation. The LPP has been made available to teachers seeking to promote learning awareness and better understand learner motivation.

研究分野：外国語教育

キーワード：motivation SLA linguaculture resistance engagement demotivation affect mixed states

1. 研究開始当初の背景

国際化と外国語教育を推奨する教育政策にも関わらず、多くの学生は言語学習に対する心理的な抵抗を経験している。しかしながら、このような課題に関する研究はほとんど実施されていない。また、学びの過程における心理的ストレスや外国語学習に対する学習者の認識に焦点を合わせた研究成果もあまり報告されていない。否定的な学習者の態度に関する第2言語習得論(SLA)の調査では、学習者の外的要因に焦点をあて、否定的な態度を学習意欲の欠如、または学習の失敗として扱うことが多い。本研究は、外国語を学習することによる心理的な要素を探究することにより、政府の方針とのギャップを埋めることを目的としている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、外国語学習に対する心理的な抵抗を理解し、その尺度を測定するツールを作成することである。そのツールである Language Motivation Profiler (LMP)を開発することにより、教育者が学習者の動機をよりよく理解することを支援する。また本研究は、動機付け研究の新しい概念のアプローチである Development Model of Linguaculture Learning (DMLL)を提唱する。この考えは、異文化適応研究に由来しており、言語文化の学びにおける否定的な反応を学習過程の通常の部分として扱っている。本研究により、教育者が学習者の心理学に関する側面を洞察し、また、学生自身も外国語学習における態度について理解できるようになることを目的としている。

3. 研究の方法

初年度に約70名の語学教師にアンケートを実施し、日本語学習者が学習へのポジティブおよびネガティブな感情について発言する内容を質的に調査する。このデータは、意欲、抵抗、混合状態の心理的要素を分析する。そして、このデータの結果を心理的な尺度を測定する Linguaculture Motivation Profiler (LMP)を開発するための最初の質問項目を構築するために使用する。次年度は、作成された質問項目を使用して約600名の外国語を履修する大学生から収集し、因子分析を行いながら有効性の高い項目を選択および新たに加えていく。各年度の成果は、国際学会で発表し、フィードバックを得る。最終年度には、ワークショップを開催して成果を公開しながらさらなる改善を重ねる。

4. 研究成果

本研究では、言語学習に対する心理的な抵抗と積極的な学習意欲を測定するツールである、Linguaculture Motivation Profiler (LMP)を開発する。また、言語の学習者に共通する抵抗パターンを分析するアプローチを提唱する。研究結果では、学習者は意欲と抵抗を示す混合状態を経験することが明らかになり、学習者は意欲を表現するが、努力をすることへの無意識の抵抗を表現していることが理解できる。学習者の学びに対する抵抗は無意識ではあるが批判的な自己判断の一因となり、さらなるモチベーションの減退に繋がる。その研究成果を国内外の学会で口頭発表やワークショップを開催し、そこで得たフィードバックを基に成果をまとめ国際学会で論文も出版予定である。

研究結果として、言語学習に対する心理的な抵抗と関与を測定するツールである Linguaculture Motivation Profiler (LMP)を開発した。LMPは、学習者が自分の学習意欲について振り返り、また教師が学生の学習意欲の原動力をよりよく理解するためのツールである。LMPの最初のバージョンには54項目が含まれていた。構成要素の妥当性は、因子分析(プロマックス回転を使用した主要因子分析)を実行することによってテストされ、3つの因子が抽出された。それらの要因は、LMPによって予測された構成要素(抵抗、関与、混合状態)に対応していた。1つ目の要素である抵抗は、「一生懸命勉強しているが、英語力は伸びていない」などの意欲低下に関連する項目に関連する。2つ目の要素である混合状態には、「英語が好きだが、勉強しない」など、学習意欲の動機(関与)と回避の動機(抵抗)が混在する項目である。最後の要素である関与には、「英語の勉強が楽しい」など、学習意欲の動機を反映する項目が含まれている。因子分析により、相関係数が低いとされる0.39以下の項目を削除した。相関性の高い項目を残し、パイロット調査を通じて新しい項目をテストした後、LMPの最終バージョンを作成した(表1参照)。最終バージョンは、参加者のこれまでの語学の学習年数や滞在国などを含める情報13項目を含める合計43項目から成る。LMPはオンライン(日本語または英語)でアクセスでき、10分以内には完了する。

LMP は、抵抗、混合状態、関与の観点から動機を測定することが可能である。LMP を教育のコンテキストで使用できる方法は 4 つある。1) LMP は一種の診断評価として適用できる。学生の態度、信念、言語学習の認識に焦点をあてることで、学習者のニーズを特定できる。2) LMP は形成的評価に使用できる。学習者のスキル、強み、学習への潜在的な障壁、学習に対する態度などのデータを作成し、学生が個人的に学習目標を立てることを支援する。3) LMP は学習者の反射性を促進できる。反射性とは、学習者自身の態度、思考プロセス、価値観、仮定を問うことである。したがって、教師は学生に言語文化学習の過程において抵抗したり関与したりする原因を振り返るように働きかけることができる。例えば、教師は、LMP の結果に基づき、ジャーナルを書かせたり、宿題の書き込みタスクを設定したりする。4) LMP は、行動研究のデータ収集ツールとして使用できる。このようなアクションリサーチは、学生の態度、認識、言語文化学習の経験に合わせて継続的に学生自身の態度を改善したいと考える際に効果的である。

抵抗と関与の観点から学習意欲を理解することは重要である。抵抗は、学習プロセスの自然な現象と見なされ、研究成果は学習者の抵抗の原因を理解し、それを克服するのに役立つ。また失敗したという感情や自己否定する経験を減らし、効果的に学習に取り組むことができる。混合状態の概念は、学生がどのように学ぶことへの願望を持つことができ、また学習過程において心理的な抵抗を持っているかを明らかにする。このような考察は、学習者が自分の動機付けの状態をよりよく理解することに繋がる。

本プロジェクトでは、学生の言語学習に対する心理的な抵抗と積極的な学習意欲を測定するツールを作成することができた。データの分析結果から抵抗と関与のパターンが確認されている。本研究の成果は、口頭発表、ワークショップ、出版物を通じて広く公表されている。LMP は、言語教師が自由に利用でき、その活用は拡大している。現在、LMP を使用したデータ収集は進行中であり、今後の研究では、より多くのデータを収集し、関与と抵抗の一般的なパターンについてより広範囲に結論を導き出すことを目標としている。また、教室で LMP を実用化するための多くの活用方法をさらに開発するアクションリサーチも必要であると考えている。

表 1: LMP の質問項目

抵抗 (Resistance)
1. 英語は一生懸命勉強してもできないので、努力しない。
2. 日本人が英語の習得を強制されるのは不公平だ。
3. 英語を学ぶことは皆が言うほど重要ではない。
4. ここは日本なので英語を学ぶ必要はない。
5. 英語が自分に役立つことはないと思う。
6. 英語を勉強することは努力に見合わない。
7. 英語教育のやり方のせいで英語が嫌いになった。
8. 海外で英語を使いたいけど、英語のクラスで英語を使うことは好きではない。
9. 将来英語を使うことはないから、勉強する気にならない。
10. 英語を学ぶことは、トラウマになっている。
11. 英語の習得をあきらめようと思う。
12. 英語を学ばなくてはいけないことがとても嫌だ。
13. 日本の学校では英語の授業が多すぎる。
14. なぜ英語を勉強しなくてはならないかわからない。
混合状態 (Mixed States)
1. もっと英語を使いたいけど、自信がない。
2. 英語を長く勉強してきたけど、ほとんど上達していない。
3. 英語をもっと勉強すべきだと思うけど、実際にはしていない。
4. 英語をもっと話せたらいいけど、恥ずかしい。
5. 英語を流暢に話したいけど、練習することは好きではない。
6. もっと努力しないとダメだと分かっているがしてない。

7. 英語がペラペラになりたいけど、練習がめんどくさい。
8. 学校での英語の勉強は嫌いだが、実際に英語を使うことは好きだ。
9. もっと英語を上手に話したいが、やる気が出ない。

関与 (Engagement)

1. 英語を学ぶとワクワクする。
 2. 英語を使って自分の考えを表現することは楽しい。
 3. 英語を実際場で使っている人を知っているので英語習得に興味がある。
 4. 英語を学び、国際人になりたい。
 5. 英語を勉強することは楽しみだ。
 6. 海外の映画や音楽により英語を学ぶことに興味がわく。
 7. 英語の勉強は自分にとって良い時間の使い方である。
-

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Maria Gabriela Schmidt	4. 巻 40
2. 論文標題 Was man von japanischen Studierenden lernen kann; Analyse von Unterrichts Tagebuechern	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 German Literature Studies (ドイツ文学論集)	6. 最初と最後の頁 7-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sumiko Miyafusa	4. 巻 27
2. 論文標題 Understanding University Student English Learning Motivation with the Engagement and Resistance Model	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bulletin of Toyo Gakuen University (東洋学園大学紀要)	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Joseph Shaules, Robinson Fritz, Gabriela Schmidt, Sumiko Miyafusa	4. 巻 -
2. 論文標題 Measuring Resistance and Engagement: The Linguaculture Motivation Profiler	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 In P. Clements, A. Krause, & R. Gentry (Eds.), Teacher efficacy, learner agency. Tokyo: JALT	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮房寿美子・Joseph Shaules・Gabriela Schmidt・Robinson Fritz	4. 巻 28
2. 論文標題 言語と文化を学ぶ学習者のレジスタンスとモチベーションに関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東洋学園大学紀要	6. 最初と最後の頁 164-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 12件）

1. 発表者名 Joseph Shaules, Robinson Fritz, Sumiko Miyafusa
2. 発表標題 Linguaculture Resistance and Learner Motivation
3. 学会等名 Japan Association for Language Teaching 2019 45th Annual International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Joseph Shaules, Sumiko Miyafusa, Robinson Fritz, Maria Gabriela Schmidt
2. 発表標題 Engaging students with the Linguaculture Motivation Profiler
3. 学会等名 Japan Intercultural Institute Workshop, Juntendo University
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Maria Gabriela Schmidt
2. 発表標題 Developmental stages in language and intercultural learning: Mixed states
3. 学会等名 EDiLiC 8th International Congress of the Association EDiLiC (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Maria Gabriela Schmidt
2. 発表標題 Foreign language learning is intercultural learning: Shifting between states
3. 学会等名 Sietar International Conference, Sophia University (国際学会)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Joseph Shaules
2 . 発表標題 Integrating Language and Intercultural Pedagogy: An Embodied Approach
3 . 学会等名 EDiLiC 8th International Congress of the Association EDiLiC (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Joseph Shaules, Gabriela Schmidt, Robinson Fritz, Sumiko Miyafusa
2 . 発表標題 Symposium Resistance is normal - An intercultural adjustment perspective on language learner demotivation
3 . 学会等名 3rd Psychology of Language Learning conference, Waseda University (June 8th) (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Joseph Shaules, Gabriela Schmidt, Robinson Fritz, Sumiko Miyafusa
2 . 発表標題 Integrating Language and Intercultural Learning: A Developmental Model
3 . 学会等名 Society for Intercultural Education, Training and Research (SIETAR 9World Congress (August 9th) (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Joseph Shaules
2 . 発表標題 Mind, Brain and Motivation
3 . 学会等名 Japan Association of Language Teaching Annual Conference (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 Joseph Shaules
2. 発表標題 Resistance on the Brain: Why student demotivation is normal, and what you can do about it
3. 学会等名 Tsukuba University Foreign Language Center Faculty Development Workshop (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Joseph Shaules, Gabriela Schmidt, Robinson Fritz, Sumiko Miyafusa
2. 発表標題 Linguaculture Learning--Theory, Research and Classroom Practice
3. 学会等名 Japan Intercultural Institute Research Seminar (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Joseph Shaules
2. 発表標題 Mind, Brain and Motivation: From Resistance to Engagement
3. 学会等名 KOTESOL (Korea Association of Teaching English to Speakers of Other Languages) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Joseph Shaules
2. 発表標題 Motivation and Alienation: Resistance as a Natural Part of Language Learning
3. 学会等名 Japan Association of Language Teachers (全国語学教育学会) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Joseph Shaules
2. 発表標題 Resistance on the Brain: Why Student Demotivation is Normal and What to Do about it.
3. 学会等名 Japan Association of Language Teachers (全国語学教育学会)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Maria Gabriela Schmidt
2. 発表標題 Widerstand und Linguaculture. Bericht uber ein laufendes Forschungsprojekt ” (Resistance and Linguaculture. Report on an ongoing research project)
3. 学会等名 日本独文学会 第23回ドイツ語教授法ゼミナール (Japanese Society for German Philology 23rd Seminar on German Language Teaching) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Maria Gabriela Schmidt
2. 発表標題 The cultural basis of communication patterns
3. 学会等名 JALT OLE SIG 6th conference: The past, present and future of second foreign languages in Japan, Hiroshima International University (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	S c h m i d t M・G (Schmidt Gabriela) (20400616)	日本大学・文理学部・教授 (32665)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	フリッツ ロビンソン (Fritz Robinson) (20712186)	長崎大学・経済学部・助教 (17301)	
研究 分 担 者	宮房 寿美子 (Miyafusa Sumiko) (30722201)	東洋学園大学・グローバル・コミュニケーション学部・講師 (32520)	